

Kansai Economic Insight Monthly

2014/3/24

Vol.11 February/March

・APIR “Kansai Economic Insight Monthly” は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。

・レポート公開時期は毎月第二週金曜日を予定しています。

・執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 研究統括）、岡野光洋・林万平・劉洋（各 APIR 研究員）です。

・本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。

・本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
景気の現況	2
中国景気モニター	7
主要月次統計	9
Release Calendar	10

要旨

- ✓ 1月関西の鉱工業生産は前月比+2.4%と2カ月連続の上昇。2014年のスタートとしては好調な出足。
- ✓ 2月の関西の輸出額は前年比12カ月連続のプラスであり、5カ月連続で2桁の伸びを維持している。輸入も14カ月連続で増加。結果、貿易収支は6カ月ぶりの黒字となった。
- ✓ 関西の景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月ぶりに改善も、先行き判断DIは2カ月連続で大幅悪化。同月の消費者態度指数も3カ月連続で悪化。消費増税後の懸念が広がっている。
- ✓ 12月の関西の賃金は18カ月連続の前年比マイナス。大阪・兵庫がマイナスに寄与。1月の全国は3カ月ぶりの同マイナス。
- ✓ 関西1月の大型小売店販売額は6カ月連続の前年比プラス。百貨店も6カ月連続のプラス。小売販売は緩やかな改善が続く。
- ✓ 1月の関西の新設住宅着工戸数は5カ月連続で前年比増加。貸家を中心に好調が続くが、改善幅は縮小している。
- ✓ 1月関西の有効求人倍率は0.98倍、2カ月連続の改善となったが、失業率は前月より0.2ポイント悪化。
- ✓ 1月関西の建設工事は前年比21カ月連続のプラス。引き続き、建設工事の伸びは2桁を維持している。
- ✓ 2月関西の公共工事請負金額は前年比3カ月ぶりのマイナス。季節調整値では前月比2カ月連続のマイナス。
- ✓ 2月の中国製造業購買担当者景況指数(PMI)は3カ月連続で前月から減速した。景気の先行きが懸念される。
- ✓ 2月の中国の輸出入額(ドル・ベース)は前年同月比いずれもマイナスに転じた。うち日本への輸出額は6カ月ぶりのマイナス。一方、日本からの輸入額は4カ月連続のプラスである。

【鉱工業生産動向】

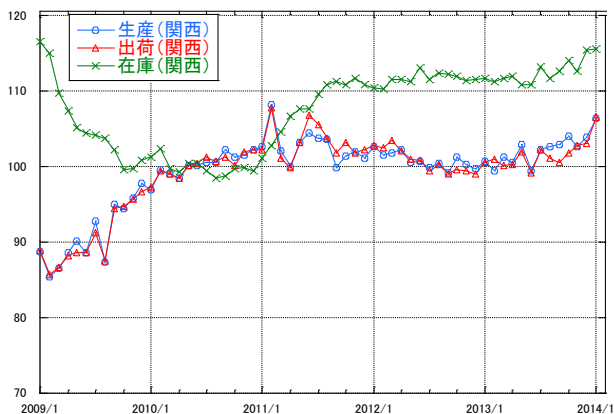
(1) 関西の生産動向

1月の鉱工業指数（速報値：季節調整済）を見ると、生産は106.4で前月比+2.4%と2カ月連続の上昇。出荷は106.6で同+3.4%と4カ月連続の上昇。在庫は115.6で同+0.1%と2カ月連続の上昇となっている。後述するように、全国では6カ月連続で在庫調整が進んできているのに比して、関西は積極的に在庫積み増しが行われている。

業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(同+5.1%)、電気機械(同+6.9%)、輸送機械(除. 鋼船・鉄道車両)(同+6.0%)等が上昇した。一方、その他(同-8.9%)、繊維(同-4.5%)、プラスチック製品(同-0.3%)等が低下した。

2013年10-12月期平均の生産指数は103.6であった。1月実績はこれに対して+2.7%の伸びとなっており、駆け込み需要を反映したものと思われる。

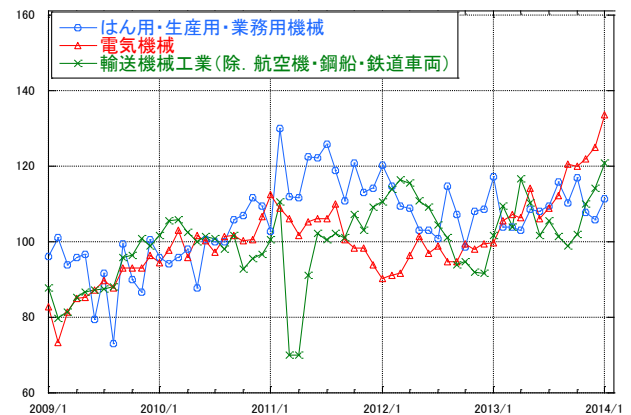
鉱工業指数の推移(関西：2014年1月まで、平成22年=100)



(注) 福井県を含む。

(出所) 「近畿経済の動向」、近畿経済産業局

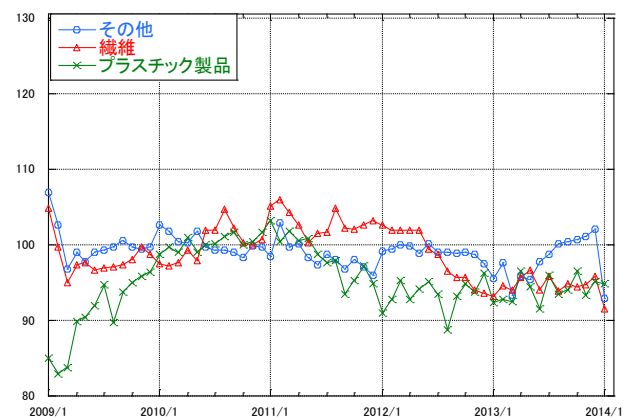
業種別生産指数の推移(関西：2014年1月まで、平成22年=100)



(注) 福井県を含む。

(出所) 「近畿経済の動向」、近畿経済産業局

業種別生産指数の推移 (続き)



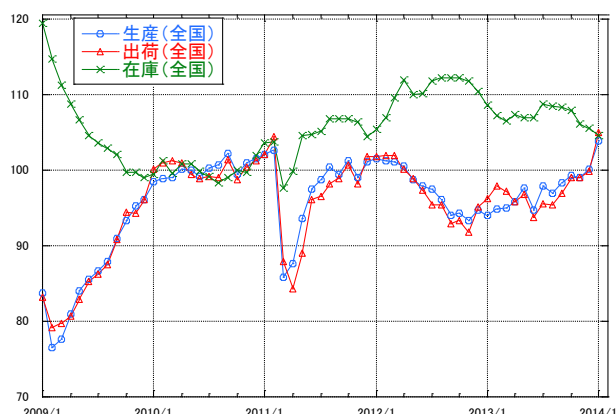
関西主要業種の生産指数におけるウェイトの変化

(2) 全国生産動向

全国における1月の鉱工業生産指数(確報値、季節調整済)は103.9となり前月比+3.8%と2カ月連続の上昇。出荷は105.0で同+5.1%と昨年11月の前月比横ばいを除けば、9月以来上昇トレンドにある。結果、在庫は104.6で同-0.9%と6カ月連続の低下となった。

業種別にみると、輸送機械(同+8.4%)、はん用・生産用・業務用機械(同+8.9%)、化学工業(同+3.0%)等を中心に生産は上昇した。一方、電子部品・デバイス(同-0.5%)、金属製品(同-0.5%)、繊維(同-0.3%)等は低下した。

鉱工業指数の推移（全国：2014年1月まで、平成22年=100）



（出所）「鉱工業指数」、経済産業省

【貿易動向】

（1）輸出

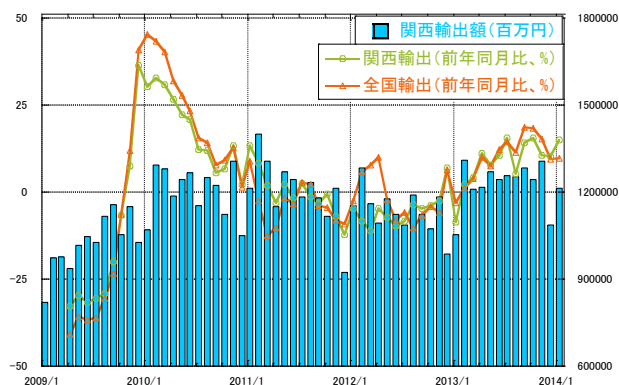
近畿圏における2月の輸出額（速報値）は1兆2,126億円、前年同月比+15.0%と12カ月連続の増加。春節の影響が出た前月の伸びからは幾分加速した。鉱物性燃料、科学光学機器、半導体等電子部品を中心に輸出は増加している。

地域別では、アジア（前年同月比+14.6%）、中国（同+25.9%）、米国（同+15.5%）、EU向け（同+9.2%）輸出はいずれも2桁近い増加となっている。

さらに品目別の輸出額を前年同月比で見ると、アジア向けでは、電気機器（前年比+4.4%）、その他（同+3.3%）、化学製品（同+2.3%）等が輸出増に貢献した。うち中国向けを見てみると、その他（同+6.8%）、電気機器（同+6.7%）、一般機械（同+5.6%）等が寄与した。米国向けでは、電気機器（同+5.3%）、一般機械（同+4.4%）、原料別製品（同+2.4%）等、EU向けでは、一般機械（同+3.3%）、原料別製品（同+2.2%）、その他（同+1.6%）等の輸入増が大きい。

全国12月の輸出額（確報値）は5兆8,000億円、前年同月比+9.8%と12カ月連続の増加。輸出増には、鉱物性燃料、自動車、プラスチック等が貢献した。輸出は近畿、全国共に改善が続いている。

輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2014年2月まで)



（出所）「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課

（2）輸入

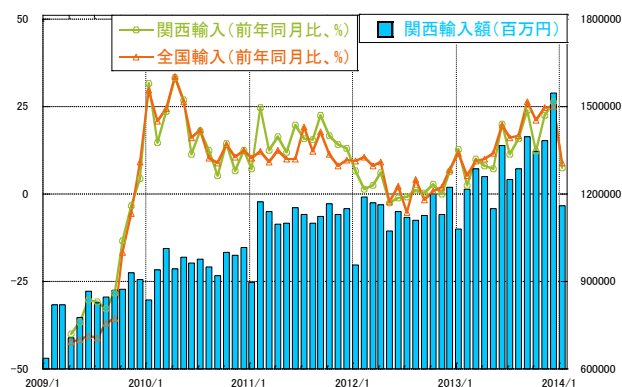
近畿圏における2月の輸入額（速報値）は1兆1,596億円、前年同月比+7.5%と14カ月連続のプラス。2013年12月から2014年1月にかけて20%以上の伸びを示していたが、駆け込み需要の影響も弱まり、2月は一桁の伸びとなった。原油及び粗油、天然ガス及び製造ガス、半導体等電子部品を中心に、輸入は増加している。なお、これらはいずれも2月単月で過去最高の輸入額となった。

地域別では、アジア（前年同月比+5.4%）、米国（同+10.0%）、EU（同+6.5%）からの輸入はいずれも増加した。一方で、10カ月連続で2桁の増加を示してきた中国（同-4.9%）からの輸入は一転マイナスとなった。

なお、品目別に輸入額を前年同月比で見ると、対前年比では、アジアからは、製品類（同+5.9%）、電気機器（同+4.5%）、原料別製品（同+1.6%）等の寄与が大きい。米国からは、製品類（同+8.9%）、化学製品（同+4.1%）、その他（同+1.4%）、等、EUからは、製品類（同+7.2%）、一般機械（同+3.2%）、電気機器（同+3.0%）等が輸入増に貢献している。一方、中国からは、その他（同-9.9%）、製品類（同-3.9%）、食料品（同-0.5%）等の輸入減が大きい。

全国の2月の輸入額（速報値）は6兆6,003億円、前年同月比+9.0%と16カ月連続の増加。輸入増加には、液化天然ガス、半導体等電子部品、自動車が大きく寄与した。関西、全国共に輸入は増加を続けている。

輸入(右、100万円)・前年同月比(左、%)推移(2013年12月まで)



(出所) 「財務省貿易統計」、財務省

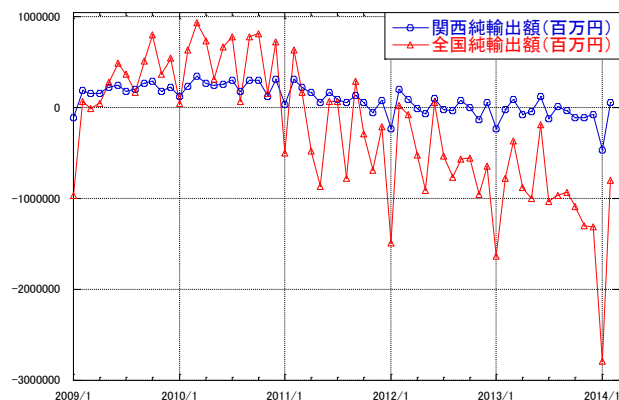
(3) 純輸出

輸出の伸びは前月から幾分加速した一方で、輸入は駆け込み需要の影響が弱まり前月から伸び率が大きく減速した。結果、近畿圏2月の純輸出額は530億円と6カ月ぶりの黒字となった。

地域別に見ると、対アジア貿易収支は2カ月ぶりの黒字となった(前年同月比+64.0%)。対中貿易は24カ月連続の赤字だが、赤字幅は6カ月ぶりに縮小(同-91.0%)した。対米貿易は黒字基調が続いており、貿易収支は5カ月連続の増加(同+22.0%)。対EU貿易は11カ月連続の赤字となったものの、赤字幅は縮小(同-58.3%)した。

一方、全国2月の純輸出額は8,003億円と20カ月連続の赤字となった。赤字幅は8カ月連続で拡大している(前年同月比+102%)。貿易収支は、関西は黒字に転じたものの、全国は赤字が続いており、関西に比して状況は依然厳しい。

純輸出(百万円)推移(2013年12月まで)



(出所) 「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課

【消費者センチメント】

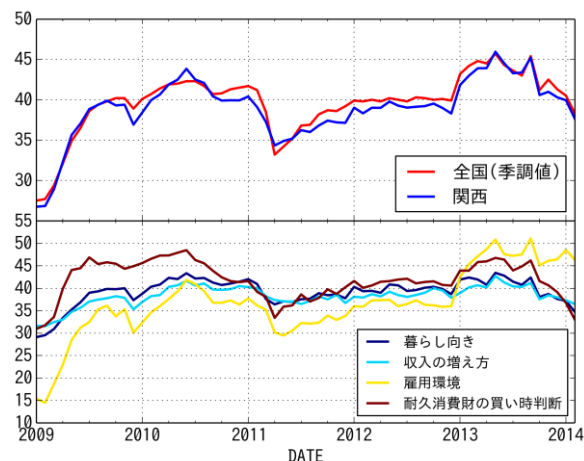
(1) 消費者態度指数の動向

関西の2月の消費者態度指数(原数値)は前月比-2.2ポイント下落し37.7となった。3カ月連続のマイナス。2011年12月に次ぐ低水準となった。

同指数の構成項目をみると、4つの指標が全て前月から悪化した。「暮らし向き」が同-2.5ポイント、「収入の増え方」が同-0.8ポイントといずれも3カ月連続のマイナス。「耐久消費財の買い判断」は5カ月連続のマイナスとなり、同-3.7ポイントと落ち込みが大きい。「雇用環境」は同-2.2ポイントと4カ月ぶりにマイナスに転じたが高水準は維持している。

なお全国の2月の消費者態度指数(季節調整値)は38.3となり、同-2.2ポイントと3カ月連続で前月から悪化している。2012年12月以来14カ月ぶりに40を下回った。

消費者態度指数(2013年2月まで)



(出所) 内閣府 「消費動向調査」(平成26年3月12日公表)

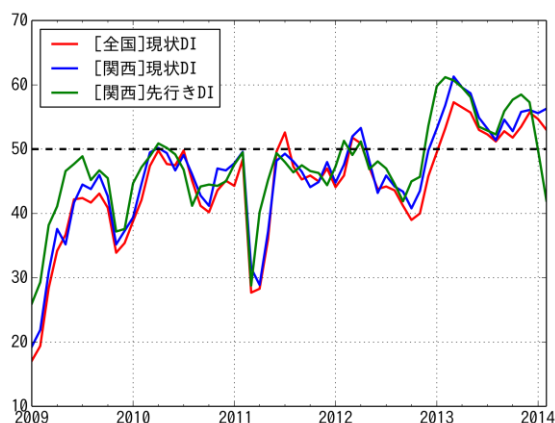
(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の2月の現状判断DIは前月比-0.7ポイントの56.3。乗用車や家電を中心とする駆け込み需要の動きが続いていることから、2カ月ぶりの改善となった。一方全国では、降雪の影響が大きく、同-1.7ポイントの53.0と2カ月連続で悪化している。

一方、関西の先行き判断DIは同-7.9ポイントの42.0と、前月(同-7.4ポイント)に続いて大幅に悪化した。全国の先行き判断DIも同-9.0ポイントの40.0となり、いずれも3

カ月連続で悪化。耐久消費財関連に限らず、幅広い業種で消費増税後の懸念が広がっている。

景気ウォッチャー調査(2013年2月まで)



(出所) 内閣府(平成26年3月10日公表)

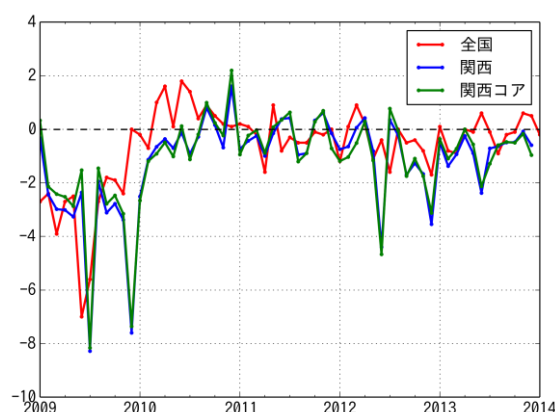
【所得・個人消費・住宅】

(1) 現金給与総額

12月の関西2府4県現金給与総額(APIR推計)は54万3,228円と前年同月比-0.6%減少した。18カ月連続のマイナス。滋賀、京都、奈良、和歌山では増加した一方で、ウェイトの大きい大阪(同-1.0%)、兵庫(同-2.9%)が減少した。また京都・大阪・兵庫の加重平均をとった「関西コア」賃金指数(APIR推計)は同-1.0%と9カ月連続の下落となった。

一方全国では、12月の同+0.5%プラスから1月は同-0.2%と3カ月ぶりに下落に転じた(いずれも確報値)。

現金給与総額(前年同月比：%、2013年1月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(平成23年平均)で加重平均。

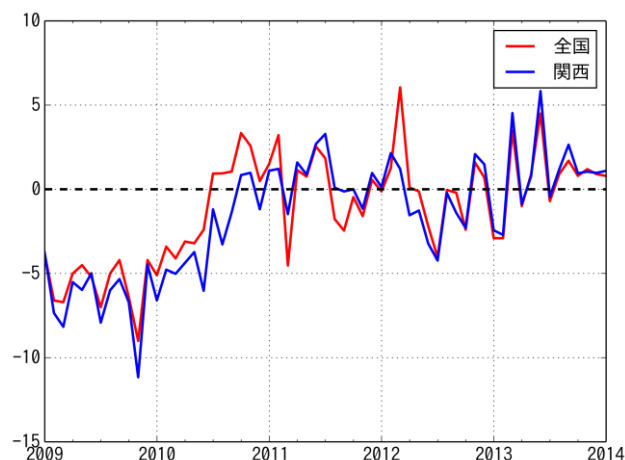
(出所)：厚生労働省「毎月勤労統計調査」(3月18日公表)

(2) 大型小売店販売額

関西の1月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+1.1%と6カ月連続のプラス。百貨店も同+3.2%と6カ月連続のプラス。スーパーは同-0.2%と2カ月連続のマイナス。高額品を中心に消費増税前の駆け込み需要がみられた。

なお全国でも、1月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+0.8%と6カ月連続のプラスとなっている。

大型小売店販売額(前年同月比：%、2014年1月まで)



(注) 福井県を含む。

(出所) 経済産業省「商業動態統計」(平成26年2月28日公表)

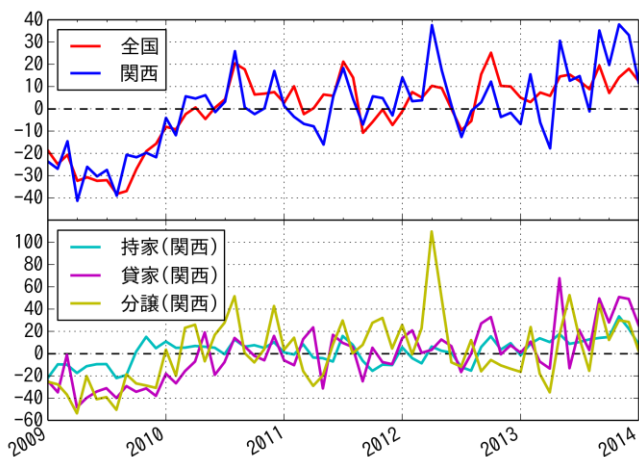
(3) 新設住宅着工の動向

関西の1月の新設住宅着工戸数は11,299戸。前年同月比+11.7%と5カ月連続で上昇。利用関係別にみると、持家は同+8.3%と12カ月連続の上昇、貸家が同+25.4%と7カ月連続の上昇。分譲も同+2.3%と4カ月連続で上昇した。

全国の新設住宅着工戸数は同+12.3%と17カ月連続で上昇。季節調整値は前月比-6.4%減少し5カ月ぶりのマイナス。先行指標である着工戸数は今後減少のスピードを速めよう。

1月の関西マンション契約率は72.1%(季節調整値、APIR推計)。好不調の目安とされる70%を超える水準を2011年9月以来維持しているが、原数値では65.2%となっており、2カ月連続で下回った。

新設住宅着工(前年同月比: %、2014年1月まで)



(出所) : 国土交通省「住宅着工統計」(平成25年2月28日公表)

【雇用動向】

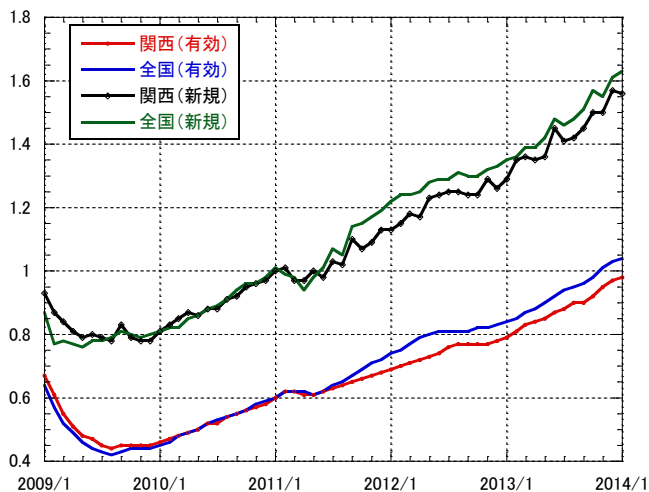
(1) 求人倍率の動向

1月の関西の有効求人倍率は0.98倍、前月から0.01ポイントの上昇。2カ月連続の改善となった。全国は1.04倍で、先月から0.01ポイント上昇。32カ月連続の上昇となった。

1月の新規求人倍率は、関西は1.56倍と前月より0.01ポイント低下。全国は1.63倍と同0.02ポイントの増加となった。

関西の有効求人倍率を府県別に見ると、大阪府は全国平均を上回り1.09となった。その他の府県は全国平均を下回った。

有効求人倍率の推移(季節調整値、2014年1月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(平成26年2月28日発表)

関西2府4県有効求人倍率(2014年1月)

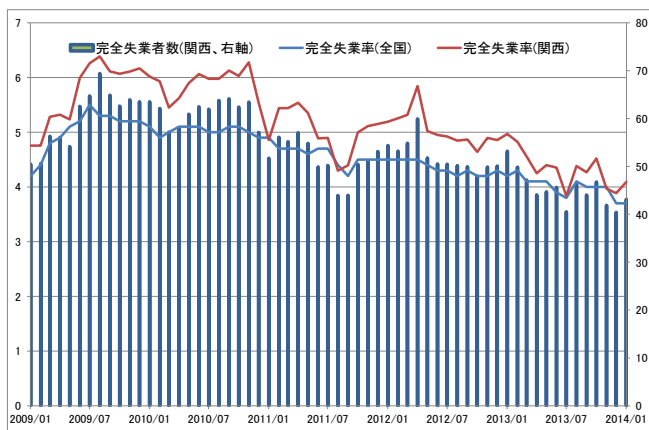
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
1月	1.04	0.98	0.93	0.97	1.09	0.83	0.92	0.94
12月	1.03	0.97	0.94	0.98	1.07	0.82	0.91	0.92

(2) 完全失業率の推移

1月の関西の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は4.1%となった。前月より0.2ポイント上昇。全国の完全失業率(季節調整値)は3.7%となり、前月と横ばい。

関西の完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は43.1万人。前月から2.7万人増加した。

完全失業率の推移(季節調整値、2014年1月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」(平成26年2月28日発表)

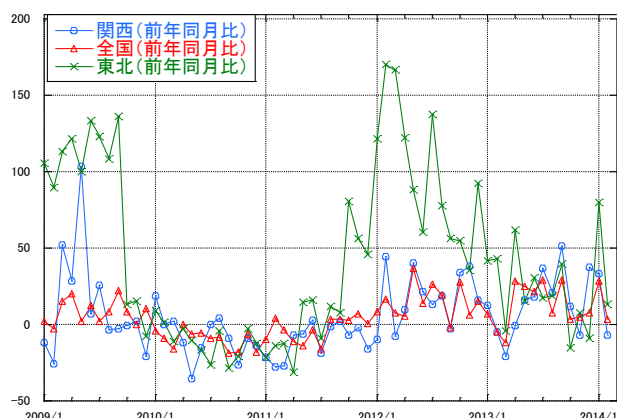
【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

2014年2月の関西の公共工事請負金額は789億円。前年同月比-6.8%と3カ月ぶりのマイナス。全国は6,959億円と同+3.7%、11カ月連続のプラス。東北は1,484億円と同+13.5%と、2カ月連続のプラス。関西の公共工事は、前年の高水準から見れば低下しているものの、東北を中心に全国の公共工事は増加が続いている。

季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は2カ月連続の前月比マイナス(関西:同-21.9%)、全国は3カ月ぶりの同マイナス(全国:同-19.2%)となった。

公共工事請負金額(前年同月比：%、2014年2月まで)

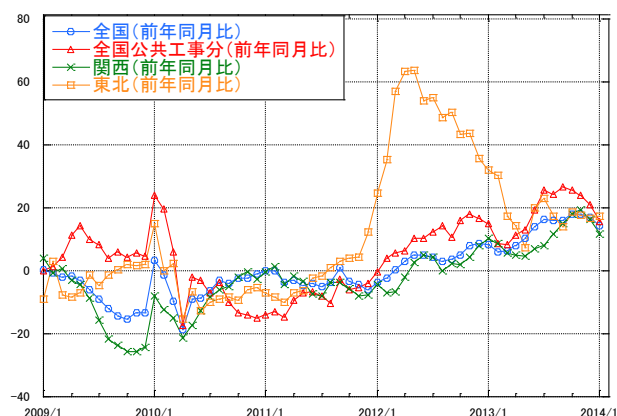


(出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

(2) 建設工事

関西1月の建設工事は5,927億円。前年同月比+11.6%と21カ月連続のプラス。関西の伸び率は2桁を維持している。東北は5,378億円と同+17.3%と30カ月連続のプラス。なお同月の全国の建設工事は4兆6,721億円となり、同+14.3%と23カ月連続のプラス。うち公共工事は2兆1,115億円、同+15.7%と24カ月連続のプラス。全国的に建設工事は堅調に増加している。

建設工事(前年同月比：%、2014年1月まで)



(出所) 国土交通省「建設総合統計」

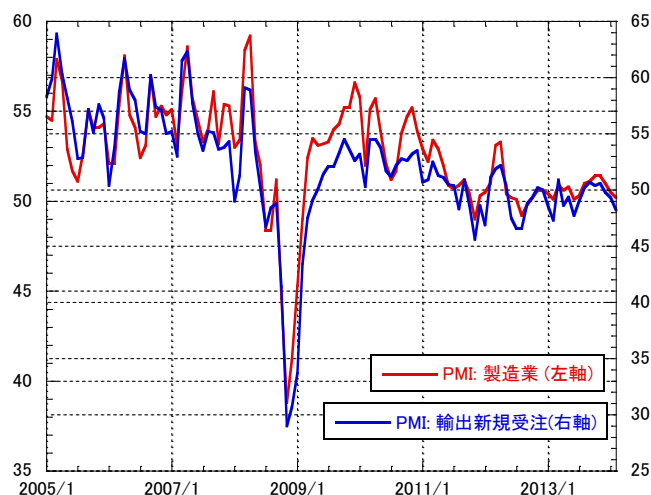
【中国景気モニター】

(1) センチメント

製造業の購買担当者景況指数(PMI)は、2014年2月に50.2となり前月より0.3ポイント低下となり、3カ月連続の減速となった。うち、生産指数は52.6となり、前月(53.0)より0.4ポイントと低下し、3カ月連続の悪化となった、輸出新規受注指数は48.2となり、前月(49.3)より1.1ポイントと大幅に低下し、50を下回る状況が3カ月続いている。さらに、新規受注指数は50.5となり、前月より0.4ポイントと低下した(5カ月連続の悪化)。また、1月の雇用指数は48.0となり、前月(48.2)から0.2ポイント低下した。3カ月連続で低下し、2012年6月以来、21カ月連続で50を下回っている。

2月に製造業PMI指標の悪化は、1月と同様に、中国の春節の影響によるものだと中国国家統計局が分析しているが、経済成長の更なる減速が懸念されている。

中国製造業購買担当者景況指数 (2014年2月まで：%)



出所：中国国家統計局; CEIC データベース

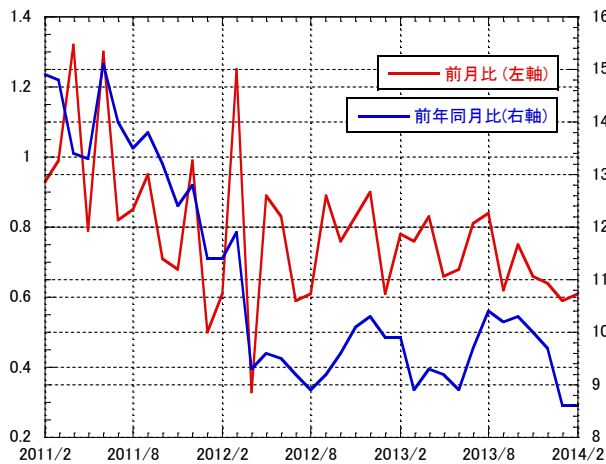
(2) 工業生産

2月の工業生産は、前月比+0.6%増加となった。前年同月比で見れば、1-2月は+8.6%と12月(+9.7%)より幾分減速し、昨年11月までは4カ月連続で10%を超える伸びが続いていたが、ここ3カ月は減速している。

産業別に見ると、1-2月は化学原料・製品製造業(前年同期比+12.0%)、医薬製品製造業(同+13.3%)、自動車製造業(同+15.5%)、電気機械・機材製造業(同+11.9%)が高い伸びを示

す一方、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+6.8%)と電力・熱力の生産・供給業(同+3.3%)の伸びは比較的低調であった。

工業生産指数(2014年2月まで：%)

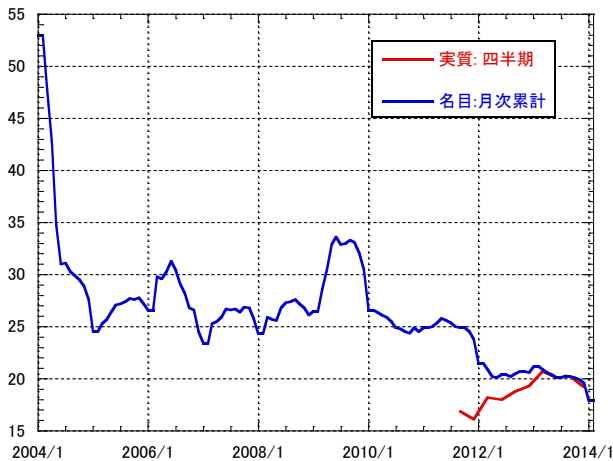


出所：中国国家统计局; CEIC データベース

(3) 固定資産投資

1-2 月における(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+17.9%となり、1月(同+17.9%)と横ばい。また、産業別の伸びを見れば、第1次産業+20.9%、第2次産業+13.7%、第3次産業+20.8%となった。

固定資産投資 (2014年2月まで：%) (累積伸び率)

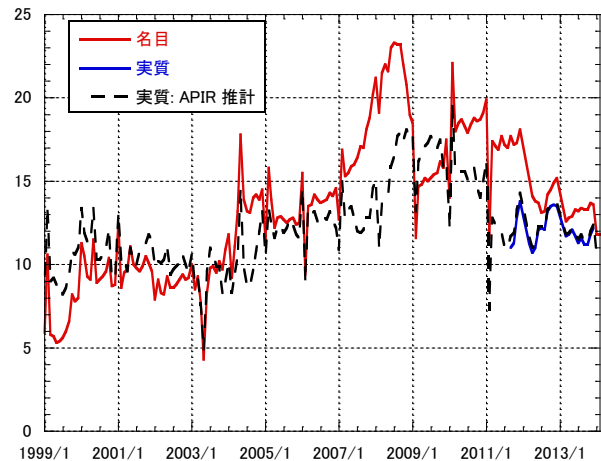


出所：中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 消費

社会消費品小売総額(名目)の成長率は、1-2月に前年同期比+11.8%となり12月から低下した(同+13.6%)。長期的に見れば、減速トレンドにある投資に比べて、消費は比較的好調であり、中国経済成長にとって重要性は増しつつある。

社会消費品小売総額 (2014年2月まで：%)



注: APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

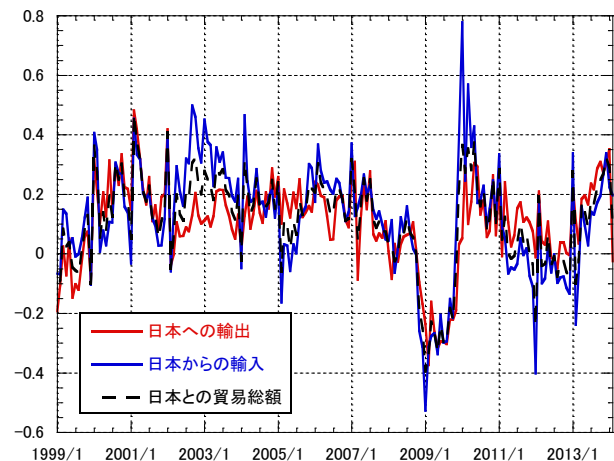
出所：中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 貿易動向

中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は2月に前年同月比-1.6%と前月(同+10.6%、確定値)より大幅に低下した。一方、輸入額も同-8.3%(速報値)と前月(同+10.1%、確定値)の伸びから大幅なマイナスとなった。

うち日本への輸出額は同-11.0%となり、6カ月ぶりのマイナス。前月(同+16.0%)から大幅に低下した。一方、日本からの輸入額は同+9.2%と4月連続のプラス。伸びは前月(同+5.1%)から加速した。円ベースに換算すると、日本への輸出額は同-2.5%(前月+35.1%)と14カ月ぶりのマイナス。日本からの輸入額は同+19.7%(前月+22.5%)と11カ月連続のプラスとなった。今後輸出の動向については注意が必要である。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年2月まで：%)



出所：中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

Release Calendar for APIR Monthly

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
3-Mar 1-Mar 中国製造業 PMI (1月)	4-Mar 毎月勤労統計 (1月：速報値)	5-Mar	6-Mar	7-Mar 8-Mar 中国輸出入 (2月：速報値)
10-Mar 景気ウォッチャー調査 (2月)	11-Mar 近畿鉱工業生産指数 (1月速報)	12-Mar 消費動向調査(2月)	13-Mar 中国工業生産(1-2月) 中国固定資本投資 (1-2月) 中国消費小売総額 (1-2月)	14-Mar 全国鉱工業生産指数 (1月確報) 商業動態調査 (1月確報)
17-Mar 公共工事前払保証額 統計(2月) 建設総合統計 (1月)	18-Mar 毎月勤労統計 (1月：確報値)	19-Mar 近畿貿易統計 (2月速報) 全国貿易統計 (2月速報) マンション契約率(2月)	20-Mar	21-Mar
24-Mar	25-Mar	26-Mar 近畿鉱工業生産指数 (1月確報) 中国輸出入 (1月：確報値(予定))	27-Mar	28-Mar 商業動態調査 (2月速報) 近畿貿易統計 (2月速報) 全国貿易統計 (2月速報) 完全失業率(1月) 求人倍率(1月)
31-Mar 全国鉱工業生産指数 (2月速報) 新設住宅着工(2月)	1-Apr	2-Apr	3-Apr	4 Apr